

8

お 名 前	性 別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
西田 敬一	男 性	87歳	21歳	小 畑

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

陸軍幹部候補生として、千葉県習志野の兵学校で教育訓練中でした。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

上記の兵学校で、整列して天皇陛下の終戦のお言葉を聞いた。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

それまで聞いていたのは勝った情報ばかり（ウソ）だったので、半信半疑でした。私たちにとっては、いよいよこれからという時期だったので、そんなバカなというのが正直な気持ちでした。しかし、数日後、兵器返納で、銃に付けられた菊の紋章*1をグラインダーで削って返納させられ、敗戦を実感しました。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「戦争の意味は？」

- ・昭和19年9月1日、甲種合格で*2、私は名古屋の第二部隊に入隊した。二部隊は名古屋城内にあり、約1500人ぐらいいた。編制は、100人で一つの小队を組み、三つの小队で中隊を組織し、全体で五つの中隊があった。
- ・留守隊要員で、3ヶ月間（9～12月）、一期教育を受けた。入隊後、直ちに中国や南方へ派遣された者もあった。
- ・20年1月より幹部候補生の教育を受けるようになり、私は7月末まで名古屋にいた。1月2日頃、米軍偵察機が上空へ飛来し（空襲警報発令）、写真を撮っていった。（高度は1万メートル以上で、高射砲は届かなかった）
- ・6月頃より、数回にわたり名古屋は空襲を受けた。空襲警報が発令されると、私たちは補助憲兵として空襲が予想される地区へ派遣された。補助憲兵は、地区の人たちから頼りにされていた。名古屋城は爆撃されず、周囲の陸軍病院などに焼夷弾が落とされた。爆撃の時、私は火の粉を払うための「火たたき」という竹の棒の先に縄を付けたものを持って、兵舎の屋根

陸軍兵士の階級

将 校	大 将
	中 将
	少 将
大 佐	中 佐
	少 佐
	大 尉
中 尉	少 尉
	准士官
	下士官
軍 曹	
伍 長	
兵 士	上等兵
	1等兵
	2等兵

*1 全ての兵器は天皇陛下のものであり、兵士はそれらを預かって戦うというのが建前となっていた。そのため、軍艦から小銃にまであらゆる武器に天皇家の菊の紋が入れられていた。

*2 20歳になると、男子は徴兵検査を受けることが義務づけられた。甲種合格は、晴れがましい名誉とされた。甲種合格の目安は、身長155cm以上、身体頑健だった。

によく登った。自分が班長^{はんちやう}だったのでみんなに知らせるため、他の兵士は防空壕^{ぼうくうごう}に入っていた。

B29の腹^{はら}がパーッと開き、焼夷弾が落とされるのを何回も見た。よく見ていると、落ちる位置が予測できるようになる。焼夷弾は、パラパラと一度空中で破裂^{はれつ}して火をふき、地上に落ちると爆発^{ばくはつ}して大きな炎^{ほのお}となった。



▲ 焼夷弾を投下するB29 (昭和史 研秀出版より)

- ・ 6月19日、豊橋空襲^{*1}の際、公用で豊橋に派遣されることになった。熱田から名鉄に乗って豊橋に着いた。中隊長の家族^{ほうもん}を訪問すると、家は丸焼け、軍刀だけを奥様^{おくさま}が大切に持ち出していた。豊橋出身^{ごちやう}の伍長は、「せっかくの機会だ。時間をやるから新城まで行ってこい。」と言われた。私は、新城まで飯田線で行き、新城駅から知人の自転車^{ごちやう}を借りて、小畑^{こはた}の家に急いだ。突然^{とつぜん}の帰郷^{ききやう}に、みんな驚いて^{おどろ}いた。御用商人^{ごよう}からたまたま手に入^{わた}ったらくがんとを渡すと、みんな大喜びだった。当時は、なかなか手に入らないお菓子^{かし}だった。30分ほどのわずかな時間だったが、父母や妹の顔を見て至福^{しふく}のひとつときとなった。

終電車で熱田までもどり、兵舎まで約10kmの道のりを歩くと、街は一面焼け野原となっていて、青い火、赤い火がトロトロと上がっていた。

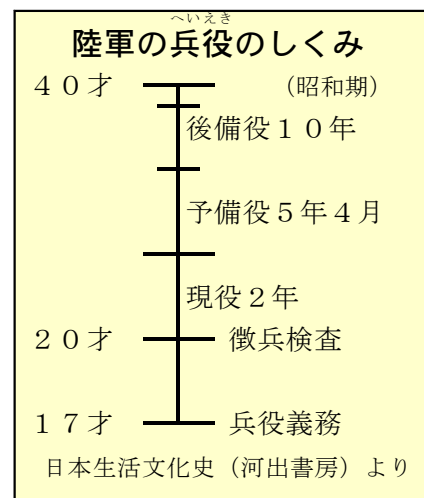
- ・ 8月1日、部隊長の命令で、千葉県習志野教育隊に入隊することになった。私が50名の幹部候補生^{かんぼうしやげき}を引率することになった。歩いて名古屋駅へ行った。ところが、艦砲射撃^{かんぼうしやげき}で浜松^{はままつ}が焼け、東海道線が不通となっていた。そのため、中央線回りで行く許可をもらい、千葉に出発した。列車はトイレにも行けないほど満員だった。

無事に千葉へ入隊したが、半月で終戦となった。終戦の実感^{じゆうせん}はなかったが、アメリカの飛行機が低空で飛び回ったり、兵器返納^{へいえき}があつて武器を取り上げられ、敗戦^{ばいせん}を実感するようになった。

- ・ 8月31日、復員兵^{ふくえいへい}として帰宅した。

○ 子どもたちへ

戦争は、すべての国民に大きな犠牲^{ぎせい}を強いる悲惨^{ひきん}な出来事^{できごと}だった。「戦争に何の意味があつたのか」、むずかしいテーマだと思う。しかし、これからはずっと平和を守っていくためにも、日本が起こした戦争から学んでほしい。



*1 6月19日午後11時40分頃から3時間あまり、約90機のB29による徹底的な焼夷弾攻撃が行われ、全戸数の70%が全焼もしくは全壊した。市街地はがれきの山と化した。P-42-参照